平和の大切さを伝えるために

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式ならびに平和祈念式が広島の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校の生徒代表16人を含む22人の平和使節団が参列し、原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげました。

また、各中学校、地区長連合会、女性団体連絡協議会、青年会議所、市役所に来庁した方々そして市役所職員が、平和への願いを込めて折った千羽鶴（約1万5千羽）を公園内にある「原爆の子の像」にささげてきました。

問総務課（☎826・1111　内線2200）

■土浦市地区長連合会　田口長八郎さん

被爆から69年、土浦市平和使節団の一員として広島平和記念式典に参加いたしました。

台風11号の影響もあり、数多い遺構のある平和記念公園内の式場は、43年ぶりの遣らずの雨が前日より降り続いていました。到着早々に原爆ドーム近くの元安橋を渡り、「原爆の子の像」脇の飾り台に持参した千羽鶴を献上しました。資料館などの研修見学は、被爆の悲惨さを我々に悲しい程印象付けました。2泊3日で平和の有難さを学んだようです。

■土浦市女性団体連絡協議会　吉田照美さん

「平和のあり方」が揺らぐ今、平和使節団に参加し多くのことを考えさせられた。式典当日は大雨にも拘らず、車椅子の人、若い人、外国の人達も大勢参列、平和な世の中を願う熱い思いが伝わってきた。式典での、こども代表あいさつ「平和への誓い」いつも心打たれるものを感じていたが、広島では幼少期から平和教育に力を入れていると聞き、広島のこども達の心底からの叫びであり、教育や環境による温度差を感じずにはいられなかった。

■土浦青年会議所　鈴木雅史さん

初めて広島を訪問し、平和記念式典に参加させていただきました。市内に残る原爆の爪痕や式典参加を通じて戦争の恐ろしさと現在も続く多くの問題を抱えていることを実感しました。また、自国だけでなくさまざまな国の人々が平和と戦争の根絶を願っているのだと知りました。関心の有無ではなく、核兵器そのものは悪でしかありません。今回参加させてくださった土浦市に感謝するとともに後世へときちんと伝承していく大切さを学ばせていただきました。

■土浦一中　教諭　関口大輔さん

参加する前までは全く別の世界の行事だと思っていた広島平和記念式典。しかし、他人事だった「戦争」「原爆」に対する考え方が次第に変わっていくのを感じました。小学生代表の平和への誓い「平和とは何かを考え、これからについて語り合い、話し合いましょう」という結びの言葉は広島の人々だけではなく、全人類へのメッセージだと思います。「平和」がもつ意味について深く考えさせられる貴重な3日間となりました。

■土浦一中　2年　遠藤光太さん

使節団に参加し有意義な時間を過ごすことができました。式典では皆真剣で、とても良い体験だったと思います。僕が最も印象に残ったのは、灯ろう流しです。灯ろう一つひとつの思いがあれば、世界平和も実現できると思いました。

■土浦一中　2年　井上さくらさん

「絶対悪」広島市長は、原爆をそう表現しました。私たちは被爆者の声を直接聞ける最後の世代かもしれません。8月6日、私は平和記念式典に参加しました。本当にあの日、この地に原爆は落とされたのだと実感しました。生きよう、大切なものを守ろうという当時の人々の気持ちがひしひしと心にしみました。

■土浦二中　2年　先崎大翔さん

「戦争は絶対にしてはいけない」と強く平和使節団として広島へ行き思いました。だから、他の国の戦争についてより関心が深まりました。一発で多くの命を奪う原爆や戦争がない平和な世界になる事を願っています。

■土浦二中　2年　入口あみかさん

数々の建物や像、写真を実際に目にすることで原子爆弾がもたらした多大な影響を知り、戦争の悲惨さと恐ろしさを実感しました。戦争を知らず平和を当たり前のように思っていましたが、今回広島を訪れてみて、改めて平和の大切さを学ぶことができました。

■土浦三中　2年　高山寛史さん

「信じられない」これが僕の広島に行った感想です。なぜなら、一つの原子爆弾で、広島の人々を悲しみのどん底に落としたなんて、想像もつかなかったからです。僕はこの体験を通して、今後、戦争が二度と起こらない、そんな社会をつくろうと思いました。

■土浦三中　2年　堀　帆花さん

私は、平和使節団に参加させていただいたことで命の尊さを良く学ぶことができました。

人の命がどれくらい大切なのか、どれくらい重いものなのか実感しました。原爆ドームを直接見たことで感じる戦争の恐ろしさや戦後の人々の辛さ、そして命の尊さを改めて考えることのできる貴重な体験となりました。

■土浦四中　1年　山﨑紫音さん

今回、広島平和記念式典に参加して感じた事はとても厳粛な雰囲気で重い感じの式だったことです。また、市長のあいさつを聞いても、とても胸が痛み、この地に原爆が落とされ多くの人が亡くなったことを思うと、とても複雑な気持ちになりました。

■土浦四中　1年　船田萌々さん

今から69年前の夏。広島に一発の原子爆弾が落とされ、多くの人の罪なき命がうばわれました。私は広島に行って改めて過去の出来事にしてはいけないと思いました。まだ戦争は終わってはいません。被爆者の方々は苦しんでいます。小さな努力が大切なのです。

■土浦五中　2年　萩原　航さん

僕は、今回の広島平和使節団で、平和記念資料館や記念式典、灯ろう流しに参加して、多くの尊い命が戦争によって犠牲になったということを、身近に感じることができました。今回の平和使節団で見たこと、聞いたこと、学んだことを多くの人に伝えたいと思います。

■土浦五中　2年　鶴田望未さん

今回の使節団に参加して、私はとても多くの事を学びました。原爆の恐ろしさ、人々の悲しみ、そして何よりも、私たちが今、とても幸せであること…。このことを後世に伝え、日々の幸せをかみしめながら生きていきたいと思いました。

■土浦六中　2年　土屋尚輝さん

69年前の広島へ原子爆弾が投下され、多くの人々は傷つきました。

私は、8月5日からの3日間広島で起こったことを現地で学習することができました。我々はこの悲惨な出来事をふまえ平和へと進み続けれられるよう努力していくことが必要だと思いました。

■土浦六中　2年　久松史枝さん

69年前のあの日広島では、普通の生活がなくなりました。しかし、生き残った人々は復興に向け、活動を始めました。現在の広島は明るい街となっています。明るい街がいつまでも続くよう、1日でも早く核兵器がなくなり、平和が続くよう願っています。

■都和中　2年　武木緩斗さん

原爆投下から69年経った8月6日に広島平和記念式典に参加させていただきました。原爆資料館では、想像を絶するものばかりで目を背けたくなるものもありました。「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界平和の実現に向け、この体験をより多くの人に伝えていきたいと強く感じました。

■都和中　2年　幸田美保さん

私は平和使節団に参加して、強く感じた事がある。それは、当たり前と思っていたものが大切だという事だ。私が感謝したいのは、生きている事だ。戦争時には、たくさんの尊い命が奪われた。これからは感謝していきたい。

■新治中　2年　屋代和志さん

もし、自分の大切な人を失ってしまったら僕は生きていけないかもしれない。今、僕たちの平和な暮らしがあるのも、計り知れない苦しみに耐えながらも、二度と戦争を繰り返さないよう生きて語り継いでくれた人たちのおかげだと思う。僕も次の世代に伝えます。

■新治中　2年　酒井優希さん

私が、平和使節団として参加して印象に残ったことは、平和記念資料館に展示されていた被爆者の写真と原爆の被爆を受けた建物です。戦争の悲惨さを、私たち日本国民は十分に理解していると思います。だからこそ、二度と戦争を起こしてはならないと思います。

（原文のまま）